

# 鳳鳴朝陽



鳳鳴朝陽 (ほうめいちょうやう)

元旦に鳳凰が朝日に向かって鳴くと  
その年は縁起がよいとされている。

世界中の隅々まで

平和で幸せな年でありますように  
新春の御祝詞を申し上げます





## 新年のご挨拶

理事長 沼田 雅博

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご高配と温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、米国の新政権が打ち出したトランプ関税によって、世界中が振り回される展開となりました。この難局にあたり、わが国の政府が粘り強く交渉を重ねた甲斐あって、当初懸念された高関税は回避される方向で決着しました。先行きの不透明感により世界規模で景気マインドが一時沈滞しましたが、交渉が進展し最悪のシナリオから脱した際には大きな安堵感が広がりました。まさに「不安」が「不安定」を招き、「安心」が「安定」を生む実例であり、心の持ち様が経済に大きな影響を及ぼす、景気の「気」をあらためて実感した次第です。

しかし、追加関税という新たな負担が生じることに変わりはなく、サプライチェーンを構成する誰かがこれを負担しなければなりません。その影響は日米双方の企業セクターですでに顕在化しつつあります。また、米国の消費者物価への波及が世界経済へ及ぼす影響も懸念されます。今後の情勢を注意深く見守るなか、貿易構造の多角化、製品やサービスの高付加価値化、生産体制の柔軟化や強靱化といった取り組みを急ぐ必要があります。

また、日本は憲政史上初の女性総理大臣誕生という歴史的な一歩を踏み出しました。これはジェンダーギャップ解消に向けた大きなメッセージであり、日本社会における女性活躍に大きな弾みをつけることでしょう。新たな女性リーダーの誕生は、国内の停滞感を打破する「決断と前進」の内閣として、国民の大きな期待を背負っています。多様な視点と知見によって、少子高齢化や物価高騰など山積する課題を解決すべく、その手腕に注目したいと思います。

こうしたグローバルな変動と国内における新たな潮流のなか、北陸では地域経済の柱である製造業が昨年も堅調に推移し、地域全体の活力を支えました。一昨年の北陸新幹線延伸による効果も、観光客の増加という目に見える形で持続しており、ビジネス交流の深化や域外からの投資の呼び水となっています。一方、北陸が抱える課題として、全国平均より早いペースで進む人口減少と高齢化、特に若者の大都市圏への流出が挙げられます。また、他の地域と同様に、人手不足などによる供給制約や原材料価格の上昇による利益圧迫にも直面しています。これからの北陸経済を発展させるうえでは、AIなどデジタル技術の活用による生産性向上、観光資源の広域的な商品化、地域内での定住・交流人口の確保に向けた戦略的な取り組みを継続することが不可欠です。

2026年の干支は「丙午（ヒノエウマ）」。

古来より「変革と飛躍の年」として知られ、新しいエネルギーが溢れ出す象徴とされています。当研究所は「価値共創」の基本理念のもと、北陸が持つ地の利、潜在能力を信じ、激動の時代にあっても地域と企業の活力を高めるため、職員一同全力を尽くしてまいる所存です。本年も皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のこの一年のご健勝と、益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。